

4月10日(月)

喜んでリスクを取る

聖書朗読 ダニエル 3：8～18

ほむべきかな。シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神。神は御使いを送って、王の命令にそむき、自分たちのからだを差し出しても、神に信頼し、自分たちの神のほかはどんな神にも仕えず、また拝まないこのしもべたちを救われた。

ダニエル 3：28

「どのくらいのリスクなら許容できるだろう」。これは投資をする際にまず考えることではないでしょうか。これを信仰に当てはめたいかがでしょう。どの程度のリスクなら耐えられますか。

神の道を歩む上でのリスクは、どの程度まで許容できるでしょうか。このことについてイエス様は、全く逆と思われるようなことを言っておられます。命を得たいと思うなら、主のためにすべてを喜んで捨てなさいと。主のために、信仰のあり方を完全に变える心構えがありますか。

実際そのような生き方をした人たちがおります。シャデラク、メシャク、そしてアベデ・ネゴ。彼らの姿勢には、私たちも励まされます。彼らは取るべきリスクをよく理解していました。火の燃える炉を目の前にし、彼らはネブカデネザル王にこう言うのです。『神は私たちをあなたの手から救い出します。しかし、もしそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々に仕えず、あなたが立てた金の像を拝むこともしません。』（ダニエル 3:18）。なんと勇敢な発言でしょう。

真の信仰には「たとえそうでなくとも」という姿勢が伴うものです。結果はどうあれ、また何かを失うことがあっても、必ず得るものがあると信じる姿勢です。信仰におけるリスクは、挑むに値する価値があるのです。それは神の約束に基づいたものだからです。約束をされた方は忠実なお方であり、信仰の上でのリスクに挑んだ者には、常に素晴らしい報酬を与えてくださいます。

讃美歌 379

祈り お父様。主の御名のために、あらゆるリスクを喜んで受けるしもべとしてください。アーメン。

ステファン・スチュワート
ニューメキシコ州 アルバカーキ

今日の力

2017年4月10日～4月16日

翻訳 藤岡伸子

鈴木慈久

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

4月11日（火）

内 輪 の 秘 密

聖書朗読 マタイ 1：1～17

私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。
エペソ 1：5

マタイは、油注がれたお方であり王家の血を引き、ダビデ王の子孫である救い主としてイエス様がお生まれになるまでの系図を、男性の名を挙げて記していますが、興味深いことに、その王や王の息子たち、そしてイスラエルの男性の名の中に、5人の女性の名を挙げています。彼女たちは、私たちが思い描くような、イスラエルの高位に就いた女性統治者のような存在ではありません。マタイはむしろ、正統なユダヤの血筋を引くものではないような女性をあえて列挙しています。

マタイが挙げているのは次の5人の女性です。血統を残す目的で義父を騙し、2度未亡人となったタマル。カナン人の遊女で、イスラエルの斥候をかくまい、その結果自らの民を滅ぼすこととなったラハブ。タマル同様未亡人でしたが、策略を立て、有力者であったボアズの妻となったルツ。ダビデ王が姦淫の罪を犯したバテ・シェバ。そして、イエス様の母の名も挙げられています。母マリアも結婚前に子を身ごもったとされている女性です。

マタイは、こうした女性を挙げることによって、恥さらしと思われるような事に、神の恵みが顕著に表されることを、ユダヤの人々に思い出させようとしたのです。さらに、タマル（創世記38章）とルツ（ルツ記）の記述は、死んだ父親の法的な相続権と血統を、血の繋がっていない子が受け継ぐという特別な法があったことを示唆するものです。すなわち、マタイの記した系図は、異邦人にも救いの道が与えられているということも示しています。すべての人が招かれているのです。

讃美歌 243

祈り 父よ。すべての人に救いが与えられているというあなた様のご契約を感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ミラ・セットライフ・ブース・リース
テキサス州 ラボック

4月12日（水）

平 和 を 熱 心 に 求 め る

聖書朗読 マタイ 5：23～26

あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。

ローマ 12：18

教会の一番の問題は何でしょう。私には分かる気がします。皆さん、ご自分の両手の指を下に向けて組み合わせてみてください。2本の指を立てて塔を作り、ドアの部分となった指を開けると、他の指が沢山見えますね。そうです。教会の最大の問題は集まっている人々ではないでしょうか。あなたも私も含めた人間。人間の性質こそが、最大の問題なのではないでしょうか。

人間が最大の問題だからこそ、聖書は、愛、一致、平和、赦しについて多く語っているのだと思います。今日の聖書箇所でも、主は、もし、あなたと兄弟あるいは姉妹との間に不一致があるなら、祭壇への供え物はそのままにして、まず仲直りするよう忠告しておられます。礼拝や聖餐式にあずかる前に、仲たがいをしている人があれば、その人と平和をまず求めることは、今でも変わらない教えであると思います。

けれども、こうしたことを実践することは、口で言うほど容易いものではありません。修復できない程関係が壊れてしまったり、あるいは、互いの間に築かれてしまった壁を取り壊すことが出来ないような場合もあるからです。ですから、聖書の教えは、まず「試してみなさい」ということなのだと思います。何故でしょう。それは、教会が成り立っていく上で、調和や一致が大切だからです。平和は熱心に追い求めるべきものです。平和が広がる場所、それは、平和の君に従う者たちの間にこそ見いだされるべきものでしょう。

讃美歌 531

祈り 親愛なる父よ。私たちの心を、謙遜と愛のこもった親切と赦し、そして、勇気で満たし、あなた様の御国の民の間の平和を育み求めていくことが出来るようにしてください。あなた様の栄光のために、また、あらゆる人が恵まれるために、平和を求めることが出来るようにしてください。

平和の君なるイエス様のお名前によって。アーメン。

ベン・メレネス
テキサス州 アマリヨ

4月13日（木）

敵を愛する

聖書朗読 マタイ 5：43～45

「自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め」と言われたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。
マタイ 5：43～45

サウスカロライナ州チャールストンの教会で、水曜日の祈祷会中に、9人が銃で撃たれる事件がありました。その後数日間、家族を失って悲しみの只中にあって、もその犯人を赦すと語る、その場に居ながら助かった人たちがニュースで取り上げられていました。母親を失った一人の若者は、こう話していました。「母は犯人を赦すと思う。私は幼い頃から、神様が私たちを赦してくださっているように、人を赦すようにと母から教えられていましたから」。自分の敵を愛する。そのためには、まず赦さなければなりません。イエス様はこう祈っておられます。『私たちの負いめをお赦してください。私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。』（マタイ6:12）と。自分の敵をなくすためには、まず彼らを自分の友とすることなのです。

やすかれ、わがこころよ
主イエスはともにいます
いたみも苦しみをも おおしく忍び耐えよ
主イエスのともにませば
耐ええぬ悩みはなし

——Katharina von Schlegel

讃美歌 298

祈り 親愛なる父よ。私たちを不当に扱う人を赦すことが出来るように、また、あなた様の語られた教えのとおり、敵を愛することができるようになってください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ベティ・ベンダー
テネシー州 コロンビア

4月14日（金）

ベールの陰に

聖書朗読 マタイ 6：14～17

また立って祈っているとき、だれかに対して恨み事があつたら、赦してやりなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してください。
マルコ 11：25

「あなたの心は顔に表れています」。確かに心は顔に出してしまうものかもしれませんが、私たちは誰でも自分の心を表情で悟られたくないと思うものではないでしょうか。私たちは皆、人に知られたくない心の傷や痛みを覚えているものですから。誰かを赦せなかったこと、それによって、その時の決断や今ある人間関係に影響を及ぼすこととなってしまうという経験。私たちは、心にベールをかけ、そのような過去の苦い経験や辛い思いを隠そうとするものではないでしょうか。

けれども、どうしても「相手を赦せない」と思うことがあるとき、神様は私たち決して不可能なことは求められません。赦しとは、他者の苦々しい行いに同調することでも、起こった事を忘れ去ることでも、また、耐え難い行いをそのまま続けさせることでもないのです。赦しとは、公正な判断、他者に成されることを、神に委ねることなのです。

赦しとは、激しい怒りを捨てるのではなく、そのことについて、神に助けを求めることなのです。赦せない思いは、あなたの心を蝕み、相手との今後の関係に影響を及ぼすものとなるでしょう。

赦しとは、苦痛を与える相手のために祈ることであり、日々の痛みの解消よりも平和を願い求めることを意味するのです。神は、あなたが自ら赦す者となれるよう祈るとき、あなたの心を癒してください。

讃美歌 236

祈り 聖なる神様。イエス様の心を持たせてください。人を赦すことが出来るようにしてください。あなた様が愛し方をお示しくださっていること、そして、私を赦して下さいることを感謝します。

イエス様のお名前によって。アーメン。

コニー・パクストン・エドワーズ
オクラホマ州 タレカ

4月15日（土）

心配しないで

聖書朗読 マタイ 6：25～34

まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の御国には、入れません。 マタイ 18：3

近頃、手が痺れることが多くなったので、血行を良くするために指の運動をしなくてはいろいろ考え、手で粘土をこねるのが一番良いと思い、これに決めました。

粘土の缶を取り出してきて開けると、私の好きな色の粘土が入っていて、ちょっと嬉しくなりました。粘土を手にし、なじみのある臭いをかいで、何も気にせず呑気にしていられた子ども時代を思い出し、懐かしく思いました。

大人になると、仕事や家族、自分自身のケアをしなけばならず、子どものようにのんびりとはしてはいられないでしょう。けれども、神は、無用な心配から私たちを解放しようとしておられることを覚えておきましょう。

神は、私たちが神の子であり、日々神が私たちを助けてくださると信じるようにと願っておられます。私たちは神の助けについて心配する必要はありません。神は私たちに、必要なものは何でも神に願い求めなさいと勇気付けてくださり、必要なものは満たしてくださるのです。

神のみことばを学び、祈りのうちに神とともにあることにより、心を鍛え信仰を強めることは大切なことだと思います。このような信仰の歩みをしていくことで、神に委ねることが出来るようになるでしょう。

讃美歌 291

祈り 父よ。私たちをあなた様の子どもとして歩ませてください。そしてあなた様にもっと信頼することができるようになってください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

デビー・ハリソン

テキサス州 リビングストン

4月16日（日）

よい贈り物

聖書朗読 マタイ 7：7～12

してみると、あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありましよう。

マタイ 7：11

誕生日のお祝いは、私たちの家にとっていつも特別な時間です。私の子どもがもっと幼かったころ、子どもたちはできる限り早く欲しいもののリストをくれるので、私は子どもたちが欲しいものを店で探すのに十分な時間がありました。

私は、どれを買ってどれを買わないか決めなければならませんでした。いくつかの玩具は、対象年齢から外れていたり、安全ではなかったりしました。そういったものはきっぱり切り捨てました。しかしながら、子どもたちのリストにはいつもふさわしい玩具や服があったので、私はそういったものを買いました。何度も、私は子どもたちのリストに載っていないプレゼントを買って子どもたちを驚かせましたが、私は子どもたちがそのプレゼントを大喜びしてくれるだろうという事を知っていました。私は子どもたちをとっても愛しているので、子どもたちにとって一番良いと思うものを買うことを心がけていました。

天の父は私たちの祈りをお聞きになった上で、ご自身の御心にそったもので応えてくださいます。主は私たちを愛してくださっていて、私たち一人ひとりに何が一番良いかを知っていてくださいます。私たちはよく、望んだものではないものによって大きな恵みを受けるものです。

主が祈りの中で私たちをご自身のもとに招いてくださるというのは、
なんという恵みでしょうか！

人間の見る最も良い夢も、主の贈り物には敵いません！

——エリザベス・バレット・ブラウニング

聖歌 253

祈り 祈りの中でご自身に近づけてくださり、こんなにもたくさんの祝福をくださることを感謝します。あなたの御心を私たちの人生の中で働かせてください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ジェイン・ポー・マッセイ

テキサス州 ヒューストン